

# 上場申請のための有価証券報告書の訂正報告書

( の部)

株式会社 桧家住宅

**【表紙】**

**【提出書類】** 上場申請のための有価証券報告書( の部)の訂正報告書

**【提出先】** 株式会社名古屋証券取引所 代表取締役社長 畔柳 昇殿

**【提出日】** 平成19年10月25日

**【会社名】** 株式会社桧家住宅

**【英訳名】** Hinokiya Juutaku Co.,Ltd .

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 黒須 新治郎

**【本店の所在の場所】** 埼玉県加須市南小浜509番地 1

**【電話番号】** 0480 - 65 - 8565 ( 代表 )

**【事務連絡者氏名】** 取締役総務部長 加藤 進久

**【最寄りの連絡場所】** 埼玉県加須市南小浜509番地 1

**【電話番号】** 0480 - 65 - 8565 ( 代表 )

**【事務連絡者氏名】** 取締役総務部長 加藤 進久

1 【上場申請のための有価証券報告書( の部)の訂正報告書の提出理由】

平成19年10月12日付をもって提出した上場申請のための有価証券報告書( の部)の記載事項のうち、記載内容の一部を訂正するため、上場申請のための有価証券報告書( の部)の訂正報告書を提出するものであります。

2 【訂正事項】

	頁
第一部 企業情報 .....	1
第1 企業の概況 .....	1
3 事業の内容 .....	1
第4 提出会社の状況 .....	5
6 コーポレート・ガバナンスの内容 .....	5

3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_\_ 罫で示してあります。

# 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

### 3 【事業の内容】

#### (1) 木造注文住宅建築事業

(当社グループの提供する住宅の特徴)

(訂正前)

#### 木造軸組み工法

当社グループでは、在来工法とも呼ばれる日本古来の伝統的な木組みを活かした木造軸組み工法にて住宅を提供しております。

当社グループでは、「100年愛される家づくり」を目指し、その建物の重要な構造部には檜4寸角柱や耐久性を向上させたスーパーフレーム工法を取り入れて、高耐久建物を提供しております。さらに、地震や台風などの外力に対し建物の安全性を増すために、外周壁には「耐力面材」を使用し一般的な筋かいのみの建物に比べ高強度で高耐震の建物としております。



#### 檜4寸角柱

当社グループでは、檜4寸角柱(120mm角)を採用しています。

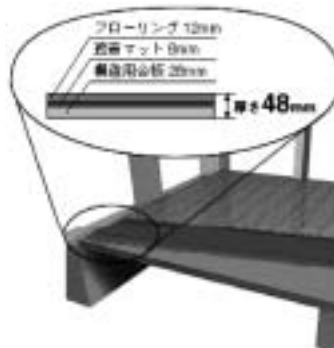
これは、檜材が高温多湿の日本で「湿気」に対し強いということ、さらに檜に含まれている成分「フィトンチッド」がシロアリなどの外敵に対し効果があることからです。

また、木造軸組み建築にて一般的に使用されている3.5寸角柱に比べ断面積が1.3倍大きい4寸角柱は、1本当たりの荷重耐力も1.7倍強いとされています。( (社)日本木造住宅産業協会 資料による )



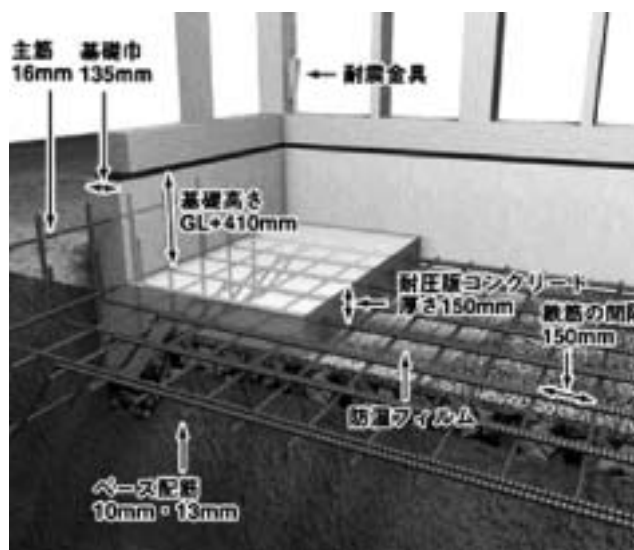
### スーパーフレーム工法

当社グループでは、2階・3階の床には集成材の梁を用いてグリッド状に構成し、厚さ28mmの構造用合板を直接梁に打ち付け、床構造を一体化させる「剛床工法」を標準採用しています。この工法により水平剛性が従来の工法に比べて飛躍的に高まり耐震性を向上しております。



### 耐圧版基礎（ベタ基礎工法）

当社グループでは、「耐圧版基礎（ベタ基礎）」を標準仕様としています。その耐圧版基礎は、鉄筋を縦横150mm間隔に細かく配り、版の厚みを150mmとした鉄筋コンクリートの基礎であります。また、立ち上り部分の主筋は16mmの鉄筋を使用し、建物の荷重や地震などの外力に対し損傷を起こしにくい構造となっています。



### 土台工法

当社グループでは、建物1階床の「土台」及び床を構成する「大引き」には湿気にも強い「ヒバ材（4寸角）」を使用しております。その大引きの受け材として一般的に使用されている「床束：ゆかづか」の代わりに鉄筋コンクリートの立ち上がりを設け、アンカーボルトにて緊結する「土台工法」としてしています。基礎と土台・大引きを一体とすることで地震や台風に耐える強固な構造としています。



### 基礎パッキング工法

当社グループでは、建物の耐久性をさらに高めるため及び断熱性能を維持するために、「基礎パッキング工法」を採用しました。この工法は、基礎立ち上がり部と土台との間に「基礎パッキン」を施工することにより、風を遮へいするものが無くなり床下全面を換気し、適度な乾燥状態にします。従来の工法に比べ換気能力は1.5～2倍になります。



(訂正後)

### 木造軸組み工法

当社グループでは、在来工法とも呼ばれる日本古来の伝統的な木組みを活かした木造軸組み工法にて住宅を提供しております。

当社グループでは、「100年愛される家づくり」を目指し、その建物の重要な構造部には檜4寸角柱や耐久性を向上させたスーパーフレーム工法を取り入れて、高耐久建物を提供しております。さらに、地震や台風などの外力に対し建物の安全性を増すために、外周壁には「耐力面材」を使用し一般的な筋かいのみの建物に比べ高強度で高耐震の建物としております。

### 檜4寸角柱

当社グループでは、檜4寸角柱(120mm角)を採用しています。

これは、檜材が高温多湿の日本で「湿気」に対し強いということ、さらに檜に含まれている成分「フィトンチッド」がシロアリなどの外敵に対し効果があることからです。

また、木造軸組み建築にて一般的に使用されている3.5寸角柱に比べ断面積が1.3倍大きい4寸角柱は、1本当たりの荷重耐力も1.7倍強いとされています。( (社)日本木造住宅産業協会 資料による)

### スーパーフレーム工法

当社グループでは、2階・3階の床には集成材の梁を用いてグリット状に構成し、厚さ28mmの構造用合板を直接梁に打ち付け、床構造を一体化させる「剛床工法」を標準採用しています。この工法により水平剛性が従来の工法に比べて飛躍的に高まり耐震性を向上しております。

### 耐圧版基礎(ベタ基礎工法)

当社グループでは、「耐圧版基礎(ベタ基礎)」を標準仕様としています。その耐圧版基礎は、鉄筋を縦横150mm間隔に細かく配り、版の厚みを150mmとした鉄筋コンクリートの基礎であります。また、立ち上り部分の主筋は16mmの鉄筋を使用し、建物の荷重や地震などの外力に対し損傷を起こしにくい構造となっています。

#### 土台工法

当社グループでは、建物1階床の「土台」及び床を構成する「大引き」には湿気にも強い「ヒバ材（4寸角）」を使用しております。その大引きの受け材として一般的に使用されている「床束：ゆかづか」の代わりに鉄筋コンクリートの立ち上がりを設け、アンカーボルトにて緊結する「土台工法」としてしています。基礎と土台・大引きを一体とすることで地震や台風に耐える強固な構造としています。

#### 基礎パッキング工法

当社グループでは、建物の耐久性をさらに高めるため及び断熱性能を維持するために、「基礎パッキング工法」を採用しました。この工法は、基礎立ち上がり部と土台との間に「基礎パッキン」を施工することにより、風を遮へいするものが無くなり床下全面を換気し、適度な乾燥状態にします。従来の工法に比べ換気能力は1.5～2倍になります。

～ に掲げた写真の削除

## 第4 【提出会社の状況】

### 6 【コーポレート・ガバナンスの状況】

#### (6) 当社定款における定め概要

(訂正前)

～ <略>

\_\_ 当社は、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当金）について、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定められる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

\_\_ 当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(訂正後)

～ <略>

当社は、取締役および監査役が、職務の遂行に当たり期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款で定めております。

\_\_ 当社は、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当（中間配当金）について、取締役会の決議により定められる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

\_\_ 当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。